

みんなと学ぶ

小学校 **算 数 1 年**

令和 2～5 年度用 年間指導計画作成資料

学校での授業および
学校の授業以外の場において取り組む学習活動
【併用版】

令和 2 年（2020 年）6 月版

学習時期，配当時間，評価規準などは，今後変更になる場合がございます。ご了承ください。

学校図書株式会社

【ご利用にあたって】

本資料は、令和2年度版「みんなと学ぶ 小学校算数」に基づいて、学校での授業および学校の授業以外の場において取り組む学習活動を併用してご指導いただく場合の年間指導計画案を示したものです。

本資料を1つの例として、地域や学校・学級の実態に応じて増減等の改変をして取り組んでいただきますよう、お願いいたします。

【本資料の作成趣旨】

●授業は1時間単位（45分）を前提としています。

●全体の学習を以下の3つに分類しております。

- 1) **授業**…通常授業の中で、主体的に学習に取り組み、基礎・基本の獲得および思考力・判断力・表現力等を身につける時間となります。
 - 2) **以外**…主に習熟・定着のための演習ページを割り当てています。時間数については、授業として行う場合の時間数を示しており、学校の授業以外の場においてその時間の学習が必要であることを示すものではありません。
 - 3) **補助**…主に集団で学び合ったり、話し合いをしたりしながら学習を進めるトピックページを割り当てています。日常や算数の世界での活用、統合・発展的な学習をねらいとしており、地域や学校の状況に応じて補助的に扱うことを想定しています。
- 2)、3)については、青いアミをしいて区別しています。

	授業	以外	補助
通常授業想定時間	121 時間		
併用時想定時間	97 時間	9 時間分	15 時間分

【その他マーク類について】

各欄での文頭のマークは下記の内容を示しています。

・「学習活動」の欄

☆の印…「数学的活動」の内容

★の印…「生活への活用」の内容

・「指導上の留意点と評価の観点」の欄

●……指導上の留意点

【知】…「知識・技能」の評価の観点

【思】…「思考・判断・表現」の評価の観点

【態】…「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点

※「評価の観点」については、その時間で中心になるものにしばって記してあります。

入門単元			
＜4月上旬・4ページ・2時間＞ 学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ), B(1)ア(ウ), [数学的活動](1)ア			

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	観点や条件が同じ集合作りの意味を理解することができる。 2つの集合の多少について、1対1対応の考え方をを用いて比べることができる。	集合の観点を明確にし、2つの集合の多少を比べるのに、1対1対応の考えを用いる力を養う。	身の回りの数量に関心をもとうとする態度を養う。
A	2つの数量の多少について、1対1対応の考え方をを用い、ほかのものの数に置き換えるなどの工夫をして比べることができる。 いろいろなものの集合作りのしかたや、多さ比べの方法を工夫するよさを理解している。	集合の観点を明確にし、集合の条件や観点を変えても、1対1対応の考えを用いている。	絵の中や生活の中に存在する数量に関心を持ち、集合間でその数量の大小を比べようとしている。
B	2つの数量の大小について、1対1対応の考え方をを用いて比べることができる。 集合作りのしかたや、数量の大小の比べ方を理解している。	集合の観点を明らかにし、2つの集合の数量の大小を比べるのに、1対1対応の考えを用いている。	絵の中や生活の中に存在する数量に関心をもとうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
ぼくじょうたんけん (2)	●生活の中の数量に関心をもつ。 ●絵の中に描かれているものをもとにして、お話を想像する。 ●絵を見て集合作りをする。 ●ものの位置を、前後、左右、上下などを使って表現する。 上 p.2～3	●絵の中に描かれているものを見つける。 ●これからどんなお話になるのか、ストーリーを想像する。 ●絵を見て場面のお話をする中で、いろいろなものの集合作りをする。 ●p.3とp.4の絵を比較して、チョウとタンポポの数を比べやすいのはどちらであるかを考える。	●入学前の数に対する知識の違いに配慮する。 ●ものの位置などを適切に表現することができるよう、前後、左右、上下などの言葉を場に応じて使わせる。 【態】場面の様子を生き生きと想像しながらお話をしようとしている。 【知】絵の中のものから、観点を決めて集合作りすることができる。
	●1対1対応によって、2つの集合の多さを比べる。 ●「多い」、「少ない」、「同じ」などの言葉を使って、数量の関係を言い表す。 上 p.4～5	●線を結んで、2つの集まりの多少を比べられないかを考える(チョウとタンポポ、ニワトリと卵)。 ●ニワトリの絵の上に赤いおはじきを、卵の上に黄色いおはじきを置き、それぞれ1列に並べ替えて数を比べる方法を知る。 ●絵の中のチョウとタンポポの数を比べるためにそれぞれ同じ数だけ○に色をぬる。	●多少を判断する場面で、数えて比べた児童には、正しいか調べてみようともちかけ、置き換えて比べることのよさに気づかせていく。 【思】2つの集合の数量の大小を比べるときには、1対1対応の考えを用いている。 【知】比べにくいものは、比べやすいほかのものに置き換えて比べればよいことを理解している。

1 10までのかず

<4月上旬～5月上旬・18ページ・10時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(ア)(イ)(ウ)・イ(ア), [数学的活動] (1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	10までの数について、個数の数え方を理解することができる。 10までの数について、正しく読み書きすることができる。 10までの数について、数の構成について理解し、表すことができる。	ものの個数を数えたり比べたりすることを通して、10までの数の大小や順序、数の構成について考えることができる。	身近な生活場面から、具体物などのものの個数を数えたり、表したりしようとしている。
A	10までの数の意味と数え方がわかり、その数の大きさや構成を理解することができる。 10までの数について、いろいろな生活場面で正しく用いることができる。	個数と数が1対1対応していることに気づき、数には順序性があることを意識して、10までの数の大小や順序について考えることができる。	具体的な場面において、ものの個数を数で表すことのよさに気づき、積極的にいろいろなものの個数を数えたり、表したりしようとしている。
B	10までの数の意味と数え方を理解することができる。 10までの数について、正しく読み書きすることができる。	ものともとの対応、ものとブロックの対応、ブロックと数字との対応などの操作によって、10までの数の大小や順序を考えることができる。	具体的な場面で、ものの個数を数えたり、表したりしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
1 から 5 まで (4)	●「3」の意味と、読み方・書き方を理解する。 上 p.6～7	●絵や教室の中からヒツジと同じ数だけあるものを探す。 ●ブロックや○の色ぬりと数字を対応させ、「3」の読み方・書き方を知る。 ●数字の表す個数のものを絵の中から見つけてそれを線で囲んだり、その個数だけ色をぬったりする。	●具体物を半具体物に置き換えたり、○の色ぬりをしたりしながら、数の世界へ導くようにする。 【知】前時の学習を生かして、正しく線で結ぶことができる。 【知】数字「3」の意味と、読み方・書き方を理解することができる。
	●「1」と「2」の意味と、読み方・書き方を理解する。 上 p.8～9	●ブロックや○の色ぬりと数字を対応させ、「1」、「2」の読み方・書き方を知る。 ●数字の表す個数のものを絵の中から見つけてそれを線で囲んだり、その個数だけ色をぬったりする。	●自分の持ちものや教室の中から1つしかないものを探す活動を設定して、意欲的に学習できるようにする。 【知】数字「1」、「2」の意味と、読み方・書き方を理解することができる。
	●「4」と「5」の意味と、読み方・書き方を理解する。 上 p.10	●ブロックや○の色ぬりと数字を対応させ、「4」、「5」の読み方・書き方を知る。 ●数字の表す個数のものを絵の中から見つけてそれを線で囲んだり、その個数だけ色をぬったりする。	●教室だけでなく外に出て、いろいろな数探しをさせると楽しい。 【知】数字「4」、「5」の意味と、読み方・書き方を理解することができる。 【態】同じ数で表すことのできるものをたくさん見つけようとしている。
	●もの、ブロック、数詞、数字の対応を確実にし、個数表現としての1～5の理解を深める。 ●数を1ずつ増やして並べることで、数の順序、系列がわかる。 上 p.11～13	●絵を見てその個数を数字で表したり、数字をブロックに置き換えたりする。 ●身の回りから自由に数を探し、もの、ブロック、数字を対応させた絵本を作る。 ●完成した絵本を同じ仲間に分けたり、数の順に並べてみたりする。 ●絵に表されたものの個数を読み取り、ブロック・数字と対応させて線でつなぐ。 ●スズメの絵を見て、気がついたことを発表し合う。	●活動を通して、個別表現としての1～5までの理解を深める。 【知】具体物とブロックや数字との対応づけができる。 【態】具体物、ブロック、数字の対応ができ、それをまとめた絵本作りに意欲的に取り組もうとしている。 ●ものや色等が違っていても、ブロックに置き換えることで同じ数字として表すことができることを確認する。 【思】個数を表す数を順に並べると、1ずつ増えていく仕組みになっていることに気づき、数の大小や順序、系列を考えることができる。

6 から 10 まで と 0 (4)	●5より大きい数に関心をもち、「6」, 「7」の意味と、読み方・書き方を 理解する。 上 p.14～15	●絵を見て、数が違ういろいろな集合 があることに気がつく。 ●ブロックや○の色ぬりと数字を対 応させ、「6」,「7」の読み方・書き方 を知る。 ●数の絵本作りをする。	●自分の持ちものや教室の中から6 や7を探す活動を設定して、意欲的 に学習できるようにする。 【知】数字「6」,「7」の意味と、読み方・ 書き方を理解することができる。 【態】進んで5より多いものを見つ け、絵本にしようとしている。
	●「8」,「9」,「10」の意味と、読 み方・書き方を理解する。 上 p.16～17	●ブロックや○の色ぬりと数字を対 応させ、「8」,「9」,「10」の読み方・ 書き方を知る。 ●数の絵本作りをする。	●活動を通して、個別表現としての8 ～10までの理解を深める。 【知】数字「8」,「9」,「10」の意味と、 読み方・書き方を理解することがで きる。
	●もの、ブロック、数詞、数字の対応 を通して、個数表現としての6～10 の理解をより一層深める。 ●数を1ずつ増やして並べることで、 数の順序、系列がわかる。 上 p.18～19	●絵に表されたものの個数を読み取 り、ブロック・数字と対応させる。 ●絵を見てその個数を数字で表す。 ●スズメの絵を見て気がついたこと を話し合う。	●ものや色等が違ってても、ブロックに 置き換えることで同じ数字として 表すことができることを確認する。 【思】個数を表す数を順に並べると、 1ずつ増えていることを理解し、数 の大小や順序、系列を考えることが できる。 【知】具体物とブロックや数字の対応 づけができる。 【知】6～10の数の順序、系列を理解 している。
	●「0」の意味と、読み方・書き方を 理解する。 上 p.20	●絵を見てそのお話をする。 ●0は何もないことを表すことを知 り、「0」の読み方・書き方を知る。 ●0が登場するお話作りをする。	【知】0を用いる場面、「0」の読み方・ 書き方を理解することができる。 【態】ゲームに意欲的に取り組み、 入った数を数えようとしている。 【知】数の大小を正確に判断すること ができる。
大小・ 系列 (2)	●数の大小を理解する。 上 p.21	●2枚ずつの数カードを使って、どち らが大きいかを当てるゲームをす る。	【知】数の大小を正確に判断すること ができる。 【態】意欲的に数の大小ゲームをし ようとしている。
	●10までの数の大小、順序を理解す る。 上 p.22～23	●数カードの並び替えゲームをする。 ●0から10までのブロックで数系列 作りをし、気づいたことを発表す る。 ●数の順序にしたがって点を線でつ なぎ、絵を完成する。	【知】数には、順番があることを理解 している。 【知】数の順序を正確に判断すること ができる。 【態】意欲的にカード並べゲームをし ようとしている。

2 いくつといくつ

＜5月上旬～中旬・8ページ・4時間＞
学習指導要領との関連 A(1)ア(エ), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	10までの数の合成・分解ができる。 10までの数の構成を理解することができる。 数を多面的にとらえることができる。	数の合成・分解を、順序立てて考え、数を多面的にとらえ、表現する力を養う。	数の合成・分解に関心を持ち、いくつといくつという見方で数を表そうとする態度を養う。
A	10までの数を正しく合成・分解することができる。 10までの数の合成・分解のしかたを理解し、数に対する豊かな感覚をもつことができる。	数の合成・分解を順序立てて考えるときに、一方が1増えれば他方は1減るなど、きまりがあることを見いだしている。 数を多面的にとらえ、1つの数をいろいろな数の組み合わせで表現している。	数の合成・分解に関心を持ち、2口だけでなく3口等、いろいろな場面の数の合成・分解を進んで見つけようとしている。
B	10までの数を合成・分解することができる。 10までの数の合成・分解のしかたを理解している。	数の合成・分解を、順序立てて考えている。	数の合成・分解に関心を持ち、いくつといくつという見方で数を表そうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
5 と 6 の つ く り (3)	●5と6について、その構成を理解する。 上 p.24～26	●5, 6の玉落としゲームを行い, 5, 6がどのように分かれるかを調べる。 ●5, 6の構成をブロックで表し, 数と関連づけてまとめる。	●ゲームの結果は, 数だけでなく「3こと2こ」など言葉で表すようにする。 【思】5や6の分け方には, いろいろな場合があることを見いだしている。 【知】5, 6の構成を理解している。
	●7と8について、その構成を理解する。 上 p.27～28	●箱から7個のおはじきを取り, 7がどのように分かれるかを調べる。 ●7の構成をブロックで表し, 数と関連づけてまとめる。 ●おはじきを8個にぎって, 一方の数を隠して, 隠した数を当てる「いくつといくつ」のゲームをする。 ●8の構成をブロックで表し, 数と関連づけてまとめる。	●活動を通して, 数構成の理解を深める。 【思】青(赤)の数に目をつけて並べてみると, 取り出し方が整理できることを見いだしている。 【態】おはじきなどを用いて, 隠れている数字を考えようとしている。 【知】7, 8の構成を理解している。
	●9と10について、その構成を理解する。 上 p.29～30	●数字カードを用いて9はいくつといくつに分けられるかを考えるゲームをする。 ●9の構成をブロックで表し, 数と関連づけてまとめる。 ●1～9までのカードを並べ, 10を作る組み合わせを考える。 ●10の構成をブロックで表し, 数と関連づけてまとめる。	●活動を通して, 数構成の理解を深める。 【態】ブロックなどを用いて, 9, 10の合成・分解を考えようとしている。 【知】9, 10の構成を理解している。
10 をつ く ろ う (1)	●10の構成に対する見方を広げる。 上 p.31	●数字トランプを作る。 ●作った数字トランプを使って, 10を作るゲームをする。 ●表を用いて10を様々な数で合成する。	●10を作るゲームを通して, 10の構成についての理解を深める。 【態】数の合成・分解に意欲的に取り組もうとしている。 【思】10個のドットを並べていろいろな形を作ることで, 10の構成について考えている。 【知】10を多様に合成・分解することができる。

3 あわせていくつ ふえるといくつ

＜5月中旬～6月中旬・18ページ・15時間（授業11時間＋以外1時間＋補助3時間）＞
学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)・イ(ア)，[数学的活動](1)ウ・エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	加法が用いられる場面を知り，加法の意味を理解することができる。 加法の記号や等号を知り，それらを用いた式で具体的場面を表したり，読み取ったりできる。 和が10以下の加法の計算ができる。	文や絵から，加法の場面かどうかを判断したり，加法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりする力を養う。	生活の中から加法の場面を見だし，式に表すよさに気づき，意欲的に問題作りに取り組もうとする態度を養う。
A	和が10以下になる加法の計算が正しく処理できる。また，いろいろな加法の場面を式に表したり，具体的な場面と結びつけて式を読み取ったりすることができる。 加法の適用場面として合併や増加の場面があることを理解し，加法の記号と等号を用いた式から具体的な加法の問題を作ることによって加法の意味を理解している。	身近な事象に対して加法が適用できる対象かどうかを判断して，加法を用いて考えている。また，加法の式をいろいろな場面と結びつけてとらえている。	身近な事象をもとに加法の適用場面を見つけることに意欲をもち，加法の考え方を積極的に用いようとしている。
B	和が10以下の加法の計算ができる。また，加法の場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができる。 加法の適用場面として合併や増加の場面があることを理解し，加法の記号と等号を用いた式の意味を理解している。	合併や増加の場面を加法の適用場面として判断している。また，加法の式を具体的な場面に結びつけてとらえている。	生活の中から加法の場面を想起して，加法の式で表すことや，加法となる問題作りに意欲的に取り組もうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
あわせていくつ (5)	●加法が用いられる場面(合併)を理解する。 ●加法の記号と等号を使って、式に表すことを理解する。 上 p.32～34	●ボールをかごの中に入れる絵を見て2つの集合を合わせる場面であることを理解する。ブロックを合わせる絵から合併の操作をしたり、言葉で表現したりする。 ●「あわせる」場面の問題で、水槽の中の金魚は何匹になるかを考える。 ●「あわせる」場面を加法として理解し、記号「+」、「=」を用いて式に表す。	●絵を見てお話を作ること、加法(合併)の場面を理解させる。 ●式は算数の言葉であり、数量の関係を簡潔に表す便利さに気づかせる。 【知】加法が用いられる場面(合併)を理解している。 【知】加法の記号や等号を使って、式に表すことを理解している。
	●「ぜんぶで」も合併を表す意味の言葉であることを理解する。 ●和が5以下の加法の計算をする。 上 p.34～35	●「ぜんぶで」の場面のお話を作り、ブロック操作で表す。 ●「ぜんぶで」も加法の場面であることを知り、加法の式で表す。 ●和が5以下の加法の計算の練習をする。	●「あわせて」の場面と同じ加法の場面であることが理解できるようにブロック操作を取り入れる。 【態】絵を見て、加法の場面のお話を作ろうとしている。 【知】加法の計算が正しくできる。
	●文から適した加法(合併)の場面を判断する。 上 p.35～36	●文から加法の場面を判断して式に表す。	●絵に表したものをみせ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【思】文から適した加法(合併)の場面を判断している。
	●加法の具体的場面を絵に表す。 上 p.36～37	●加法の具体的場面を絵に表し、互いに見合って、加法の場面になっていることを確認する。	●絵に表したものをみせ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【思】文から加法の具体的場面をイメージしている。
	●式から加法(合併)の問題を作る。 ●和が10未満の加法の計算をする。 上 p.38	●式から加法(合併)の場面を絵にかき、問題を作る。 ●和が10未満の加法の計算練習をする。	●式を具体的場面に結びつける活動を通して、加法の意味の理解を深める 【思】加法の式を具体的な場面に結びつけてとらえている。 【態】生活の中にある事象を取り上げ、問題作りに取り組もうとしている。

(5)	ふえるといくつ	●増加の場面も加法の式に表せることを理解する。 上 p.39～40	●金魚を水槽の中に入れる場面の絵を見て、増加のお話を作る。 ●ブロック操作を通してもともとあったものに後から加えて増やす場面であることを理解する。 ●「ふえる」場面も加法としてとらえ、「+」、「=」を用いて式に表す。	●ブロックの操作を通して、合併との違いに気づかせる。 【知】増加の場面も加法の式に表せることを理解している。 【態】加法の場面に関心を持ち、ブロック操作と結びつけようとしている。
		●増加の場面の理解を深め、式に表す。 ●和が 10 未満の加法の計算をする。 上 p.40～41	●加法の場面であることを知り、加法の式で表す。 ●和が 10 未満の加法の計算練習をする。	●ブロックの操作を通して、合併との違いに気づかせる。 【知】加法の式に表し、計算することができる。
		●文から加法(増加)の場面をイメージする。 上 p.41～42	●文から加法の場面を判断して式に表す。	●絵に表したのを見せ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【態】文から加法(増加)の具体的場面をイメージし、絵などに表そうとしている。
		●加法の具体的場面を絵に表す。 ●和が 10 未満の加法の計算をする。 上 p.42～43	●加法の具体的場面を絵に表し、互いに見せ合って、加法の場面になっていることを確認する。 ●和が 10 未満の加法の計算をする。	●絵に表したのを見せ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【思】文から加法の具体的場面をイメージしている。
		●式から加法(増加)の問題を作る。 ●和が 10 の加法の計算をする。 上 p.44	●式から加法(増加)の場面を絵にかき、問題を作る。 ●和が 10 の加法の計算練習をする。	●ブロックを使って答えを確かめる。 ●式を具体的場面に結びつける活動を通して、加法の意味の理解を深める。 【知】式を読み取って作問することができる。 【態】生活の中にある事象を取り上げ、問題作りに取り組もうとしている。
(2) (0)	たしざんかあど	●たし算カードを作る。 上 p.45	●たし算カードを作る。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】たし算カードを、整理しながら作ろうとしている。
		●たし算カードを使ったゲームを通して、和が 10 までの計算に習熟する。 ●たし算カードを並べて、数の変わり方の特徴に気がつく。 上 p.45	●カードを使って計算の練習をする。 ●グループで同じ答えのカード探しをする。 ●同じ答えのカードを並べ、気がついたことを発表する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【知】計算を正確に適切な速さですることができる。 【思】同じ答えになる加法の式に、数の変わり方のきまりがあることを見いだしている。

0 の たしざん (1)	●0の意味を考え、0の加法について理解する。 上 p.46	●玉入れの場面で、0を使う場面を知る。 ●0の入った計算になるお話を作る。 ●0の入った加法の練習をする。	●0でも同じように加法で表すことができることを理解させる。 【思】0の入った場面をとらえて、お話を考えている。 【知】0の加法の意味を理解している。
たしざんえほん (1) (0)	●絵本作りを通して、加法の用いられる場面の理解を深める。 上 p.47	●絵本の作り方を理解し、自由な場面で絵本作りをする。 ●できた絵本を使って、友だちに加法のお話をする。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】絵本作りに、意欲的に取り組もうとしている。 【思】加法の場面を、絵や式を用いて正確に表現している。
できるようになったこと (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 上 p.48	●加法の計算をする。 ●加法の場面を理解する。	●学校の授業以外で取り組む内容とする。わからない問題については、本文および指導書等の解答を示して理解させる。

4 のこりはいくつ ちがいはいくつ <6月中旬～7月中旬・16ページ・14時間（授業10時間＋以外1時間＋補助3時間）> 学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)・イ(ア), [数学的活動](1)ウ・エ			
◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	減法が用いられる場面を知り、減法の意味を理解することができる。 減法の記号を知り、それらを用いた式で具体的な場面を表したり、読み取ったりできる。 10以下の数についての減法の計算ができる。	文や絵から、減法の場面かどうかを判断したり、減法の式を具体的な場面に結びつけてとらえたりする力を養う。	生活の中から減法の場面を見だし、式に表すよさに気づき、意欲的に問題作りに取り組もうとする態度を養う。
A	10以下の数について、減法の計算が正しく処理できる。また、いろいろな減法の場面を式に表したり、具体的な場面と結びつけて式を読み取ったりすることができる。 減法の適用場面として求残や求差の場面があることを理解し、減法の記号と等号を用いた式から具体的な減法の問題を作ることによって減法の意味を理解している。	身近な事象に対して減法が適用できる対象かどうかを判断して、減法を用いて考えている。 また、減法の式をいろいろな場面と結びつけてとらえている。	身近な事象をもとに減法の適用場面を見つけることに意欲をもち、減法の考え方を積極的に用いようとしている。
B	10以下の数について、減法の計算ができる。また、減法の場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 減法の適用場面として求残や求差の場面があることを理解し、減法の記号と等号を用いた式の意味を理解している。	文や絵から、減法の場面かどうかを判断している。また、減法の式を具体的な場面に結びつけてとらえている。	生活の中から減法の場面を想起して、減法の式で表すことや、減法となる問題作りに意欲的に取り組もうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
のこりはいくつ (6)	●減法が用いられる場面(求残)を知る。 ●減法の記号を使って式に表すことを理解する。 上 p.50～52	●車が出て行っている絵を見て、残りの数を求める場面であることを理解する。ブロックを取り出す絵から求残の操作をしたり、言葉で表現したりする。 ●水槽の金魚をすくい上げたときに、水槽の「のこり」の金魚は何匹になったか考える。 ●「のこり」を求める場面を減法としてとらえ、「－」、「＝」を用いて式に表す。	●絵を見てお話を作ること、減法(求残)の場面を理解させる。 ●実際にブロックを取り去ることで、減法(求残)の場面を理解させる。 【知】減法の場面を理解している。 【知】求残の場面が減法の式に表されることを理解している。
	●減法(求残)の場面を絵から読み取って式に表す。 ●5以下の2数の減法の計算をする。 上 p.52～53	●絵から「のこり」を求める場面を読み取り、式に表し答えを求める。 ●5以下の2数の減法の練習をする。	【知】「のこり」を求める場面を読み取り、式に表すことができる。 【知】減法の計算が正しくできる。
	●文から、減法(求残)の場面を判断する。 上 p.53～54	●文から減法の場面を判断して式に表す。 ●文から減法の具体的な場面を絵に表す。	●絵に表したものを見せ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【態】文から減法の具体的な場面をイメージし、絵などに表そうとしている。
	●減法の具体的な場面を絵に表す。 上 p.55～56	●絵に表したものを互いに見せ合って、減法の場面になっていることを確認する。	●絵に表したものを見せ合うときに、文を手がかりにしてお話しさせるようにする。 【思】文から減法の具体的な場面をイメージしている。
	●式から、減法(求残)の問題を作る。 ●9以下の2数の減法の計算をする。 上 p.56	●式から、減法(求残)の場面の絵をかき、問題を作る。 ●9以下の2数の減法の練習をする。	●式を具体的な場面に結びつける活動を通して、減法の意味の理解を深める。 【思】減法の式を具体的な場面に結びつけてとらえている。 【態】生活の中にある事象を取り上げ、問題作りに取り組もうとしている。
	●減法(求補)の場面を文と絵から読み取って、式に表し、答えを求める。 ●10－(1位数)の減法の計算をする。 上 p.57	●文や絵からライオン全体の数とおすの数からめすの数を求める場面であることを読み取り、式に表し答えを求める。 ●ブロック操作を通して、求残と関連づけて求補の意味をとらえる。 ●10－(1位数)の減法の練習をする。	●絵やブロック操作を取り入れ、場面の理解を助ける。 【知】具体的な場面を式に表すことができる。

ひき算カード (2) (0)	●ひき算カードを作る。 上 p.58	●ひき算カードを作る。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】ひき算のカードを、整理しながら作ろうとしている。
	●ひき算カードを使って計算に習熟する。 ●ひき算カードを並べて、数の変わり方の特徴に気がつく。 上 p.58	●ひき算カードの表を見て答えを言い、裏を見て確かめる。 ●同じ答えになるカードを取るゲームをする。 ●同じ答えになるカードを並べて、気がついたことを発表する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【知】計算を正確に適切な速さですることができる。 【思】同じ答えになる減法の式に、数の変わり方のきまりがあることを見いだしている。
0のつぎ (1)	●0の意味を知り、0が用いられる場面について理解する。 ●0の減法の計算をする。 上 p.59	●水槽から金魚をとる場面のうち、1匹もとれなかった場面を考え、式に表す。 ●0の入った計算や、答えが0になる計算の練習をする。	【知】0を用いる場面を理解している。
ちがいはいくつ (3)	●減法(求差)の場面を文と絵から読み取って、式に表し、答えを求める。 上 p.60～61	●「何頭多い」「何個少ない」なども減法の場面であることを理解する。 ●ブロック操作で求差の場面を理解する。 ●式と答えの書き方を理解する。	【知】求差の場面を読み取り、式に表すことができる。
	●「どちらがどれだけ多いか」と「どちらがどれだけ少ないか」をたずねる場面にも、減法を適用できることを理解する。 ●2量の大きさを判断し、正しく立式する。 上 p.62	●「どちらが何台多い」「どちらが何匹少ない」なども減法の場面であることを理解する。 ●数を読み取り、正しく式を作る。	●図からそれぞれいくつあるのか把握させ、数の大小を考えさせる。 【思】図から正しく数値を読み取っている。
	●「ちがいを」をたずねる場面にも、減法を適用できることを理解する。 ●2量の大きさを判断し、正しく立式する。 上 p.63	●「ちがいを」をたずねる場面にも、減法を用いることを理解する。 ●解決した結果の表し方を考える。	【思】2量の大きさを判断し、正しく立式している。
ひき算えほん (1) (0)	●絵本作りを通して、減法の用いられる場面の理解を深める。 上 p.64	●身の回りの減法の場面を自由に発表する。 ●場面の变化を絵本に表す方法を知る。 ●絵本作りに取り組む。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】身の回りのいろいろな場面を想起して、絵本作りに意欲的に取り組もうとしている。 【思】減法の場面を、絵や式を用いて正確に表現している。
できるところになった (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 上 p.65	●減法の計算をする。 ●減法の場面を理解する。	●学校の授業以外で取り組む内容とする。わからない問題については、本文および指導書等の解答を示して理解させる。

5 なんばんめかな <7月下旬・4ページ・2時間> 学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)・イ(ア)・B(1)ア(ウ), [数学的活動](1)イ・ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	個数や順番を正しく数えたり表したりできる。 順序数と集合数の違いを理解することができる。 上下, 左右の基準を明らかにし, ものの順序を理解することができる。	方向や位置に関する言葉と数を用いて, ものの位置を正しく表す方法を考える力を養う。	ものの位置を表す方法を進んで生活に役立てようとする態度を養う。
A	個数や順番をいろいろな基準をもとにして正しく数えたり表したりできる。 順序数と集合数の違いがわかり, 説明できる。	順序や位置を表す数は特定の1つのものだけを指していると考え, それが基準の決め方によって変わるということを見いだしている。	身近なものの順序や位置をいろいろな基準をもとにして表そうとしている。
B	個数や順番を正しく数えたり表したりできる。 順序数と集合数の違いを理解している。	順序や位置を表すためには基準を決めることが必要であることに気づき, 表す数は特定の1つだけを指していることを見いだしている。	身近なものの順序や位置を表そうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
なんばんめ (2)	●個数や順番を正しく数えたり, 表したりする活動を通して, 順序を表す数について知る。 ●左右, 前後, 上下などの言葉と順序数を使って, ものの位置を表す。 上 p.66～68	●それぞれの動物の場所を言葉で友だちに伝える。 ●左右, 前後, 上下などの言葉と順序数を使って, ものの位置を表す。	【態】身近なものの位置を表そうとしている。 【思】ものの位置を表す方法を考えている。 【知】基準になる言葉と数を適切に使って, 位置を表すことができる。
	●集合数と順序数の関連を理解する。 ●集合数と順序数の関連の理解を一層深める。 ●平面の位置の表し方を理解する。 上 p.67～69	●前から3人目と前から3人という言葉の違いについて考える。 ●前から4人と前から4番目という言葉の違いについて考える。 ●前から2台と前から2台目という言葉の違いについて考え, 指示されたように色ぬりをする。 ●左右などの言葉と順序数を使って, ものの位置を表すゲームをする。	●学んだことを, 自分たちの生活に結びつける。 【知】2通りの数の表し方を適切に使い分けることができる。 【知】数の表し方には2通りあることを理解している。

6 いくつあるかな ＜7月下旬・2ページ・1時間＞ 学習指導要領との関連 D(1)ア(ア)・イ(ア), [数学的活動](1)エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	ものの個数を絵や図などを用いて、表したり読み取ったりすることができる。 ものの個数を絵や図などを用いて、表したり読み取ったりするよさを理解することができる。	身の回りの個数を、絵などを用いて整理して表現し、どれが多いか判断する方法を考える力を養う。	身の回りにあるものの個数を調べ、比べたり、数えたりしようとする態度を養う。
A	ものの個数を絵や図などを用いて表し、資料の最大値や最小値を読み取ることができる。 ものの個数を絵や図などを用いて表すことで、個数の大小がわかりやすくなるなど、資料を整理して表すよさを理解している。	ものの個数を数えるときに、絵や図などを用いて、わかりやすく表す方法を工夫している。	身の回りにある個数に関心を持ち、いろいろな個数を整理して比べたり、数えたりしようとしている。
B	ものの個数を絵や図などを用いて、表したり読み取ったりすることができる。 ものの個数を絵や図などを用いて、表したり読み取ったりするよさを理解している。	ものの個数を数えるときに、絵や図などを用いて表す方法を考えている。	身の回りにあるものの個数を、整理して数えようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
いくつあるかな (1)	●果物の数を調べ、数に関心をもつ。 ●資料を見やすく表す方法を考える。 ●見やすく表した絵グラフから、ものの数や特徴を読み取る。 上 p.70～71	●黒板に貼った果物カードの数を数える方法を考える。 ●果物の種類ごとに分類整理すると数えやすくなることに気づく。 ●並べる際、大きさをそろえることが必要であることを理解する。 ●果物の数を絵グラフに表し、わかったことについて話し合う。	●くだものカードを黒板にばらばらに貼り、分類整理する必要性をもたせる。 ●図に表すことでわかりやすくなることに気づかせる。 【態】果物の数調べで、数に関心をもとうとしている。 【思】見やすく分類整理する方法を工夫している。 【知】図に表すことによって、個数の大小などがわかりやすくなることを理解している。

かつどう！！

＜7月下旬・2ページ・1時間（補助1時間）＞

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●これまでの単元の学習をもとに、数の数え方、加法や減法の考え方を日常場面に適用できる。 ●これまでの単元の学習をもとに、日常場面から加法や減法の式をつくることができる。 上 p.72～73	●教室内の様々なものの数を数える。 ●どちらが多いか等を検討させ、問題を作らせる。 ●班などの少人数から、続いてクラス全体などで自分と他の人との考え方を比べさせ、整理させる。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●教室の中の場面に注目させ、たくさんの種類の「もの」があること、児童がいること、班で分かれていることを認識させる。 【態】自分の考えを人に説明したり、他の人の考えを聞いたりしようとしている。

7 10よりおおきいかずをかぞえよう

＜9月上旬～中旬・10ページ・7時間＞
学習指導要領との関連 A(1)ア(イ)(ウ)(エ)(オ)(カ)(キ)(ク)・イ(ア), [数学的活動](1)ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	10より大きく20までのものの数を数えたり、数字を用いて表したりすることができる。 「一の位」、「十の位」の用語と意味を理解し、2位数の構成を理解することができる。	10のまとまりを作って数えることを通して、十を単位とした数の仕組みとその表現のよさを見いだす力を養う。	身の回りで用いられている数を数えたり比べたり、数を用いて表そうとする態度を養う。
A	10より大きく20までのものの数を数えたり、数字を用いて表したりすることができるとともに、数だけで大小比較や系列ができる。 「一の位」、「十の位」の用語と意味を理解し、2位数の構成として合成・分解的な見方ができるなど、数についての豊かな感覚をもつことができる。	10のまとまりを作って数えることを通して、十を単位とした数の仕組みとその表現のよさに気づき、数の系列や大小に利用することができると考えている。	身近な事象の中に存在する数を見だし、10のまとまりを意識しながら数を数えたり、その数を数字で表したりしようとしている。
B	10より大きく20までのものの数を数えたり、数字を用いて表したりすることができる。 「一の位」、「十の位」の用語と意味を理解し、2位数の構成を理解している。	10のまとまりを作って数えることを通して、十を単位とした数の仕組みとその表現のよさを見いだしている。	身近な事象の中に存在する数を見だし、数を数えたり、数字で表したりしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
20までのかず (5)	●20までの数について「10といくつ」と表して数えるよさがわかる。 ●20までの数について正しく数える。 上 p.74～76	●絵を見て、リス、ドングリ、クルミの数を数える。 ●ブロックを置いて数える活動を通して「10のまとまり」と「いくつ」に分けて数えると、便利であることを知る。	●ブロックを使って箱とばらの数を書き表すことと、位取り記数法を結びつけられるようにする。 【思】10のまとまりを作ることのよさに気づき、ブロックなどを用いて、整理して考えている。
	●11から20までの数の数え方がわかり、ものの個数を数字で書く。 上 p.76～77	●絵を見てリンゴや卵の数を数える。 ●ブロックを対応させて、10と9で19、10と10で20と書き表す。 ●11から20までの数の唱え方、書き方を知り、練習する。	【知】20までの数を正しく書くことができる。
	●20までの数を数える。 ●2ずつ、5ずつまとめて数えるよさに気づき、まとめて数える。 上 p.78	●2とび、5とびでまとめて数える。	●2とび、5とびを使って、10のまとまりを作るようにする。 【知】2ずつ、5ずつまとめて数えることができる。
	●20までの数構成を知る。 上 p.79	●「10といくつ」という見方で、20までの数を表す。 ●20までの数の合成・分解について、ブロックを用いて操作し理解する。	【知】「10といくつ」という表し方で数を表せることを理解している。 ●数とブロックを関連付けて理解できるようにする。 【知】20までの数について合成・分解できる。
	●20までの数系列がわかる。 ●数直線の原点の0を知り、原点からの長さがその数の大きさを表していることを理解し、位置を数で表す。 ●20までの数の大小を比較する。 上 p.80～81	●20までの数を順序よく並べる。 ●数直線について理解し、位置を数で表す。	●「かずのせん」と初めて出会うので、その意味も含めて丁寧に扱う。 【知】原点としての0の意味がわかり、動物の位置を数字で書けることを理解している。 【知】数の大小比較ができる。
たしざんとひきざん (2)	●1つの数をほかの数の和や差としてみる。 上 p.82	●「10といくつ」の数の見方から、1つの数をほかの数の和や差として式に表す。	●ブロック操作をしながら、式に表すようにする。 【知】1つの数をほかの数の和や差としてみることができる。
	●「10といくつ」の数の見方から、(十何)±(1位数)の計算のしかたを考える。 上 p.83	●「12+3」を考える。 ●「15-2」を考える。	●「10といくつ」の考え方から、端数部分の加法・減法を考えればよいことを意識させる。 【思】「10といくつ」の数の見方から、(十何)±(1位数)の計算のしかたを図や式に整理して考えている。

8 なんじ なんじはん <9月下旬・2ページ・2時間> 学習指導要領との関連 C(2)ア(ア)・イ(ア), [数学的活動](1)イ
--

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	何時, 何時半を読み取ることができる。 時刻を時計の模型で表すことができる。 時計の長針や短針の示す目盛りの意味を理解することができる。 何時, 何時半の読み方を理解することができる。	時計の針の回り方, 目盛りの仕組みなどのきまりをもとに考える力を養う。	時計に関心をもち, 時刻を日常生活に活用しようとする態度を養う。
A	時計を見て, 時刻(何時, 何時半)を正確に読んだり, 時刻を時計の模型で正確に表したりすることができる。 時計の数字の目盛りや長針と短針の位置関係をもとに, 時刻(何時, 何時半)の正確な読み方を理解している。	時刻(何時, 何時半)を読む際, 時計の長針と短針の位置関係に着目して考え, 読み方を工夫している。	自分の日常生活と時刻を関連させてとらえようとし, 日常生活で活用しようとしている。
B	時計を操作しながら, 時刻(何時, 何時半)を読んだり, 時刻を時計で表したりすることができる。 時計の数字の目盛りや長針と短針の位置関係をもとに, 時計の模型を操作することによって, 時刻(何時, 何時半)の読み方を理解している。	時刻(何時, 何時半)を読む際, 時計の長針と短針の位置関係に着目して考えている。	自分の日常生活と時刻を関連させてとらえようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
とけい (2)	●時刻に関心をもち, 生活場面と結びつけて時刻を読もうとする。 ●時計の仕組みに関心をもち, 時刻(何時, 何時半)の読み方と結びつけて考える。 ●長針と短針の動きや文字盤から, 時計の仕組みがわかる。 上 p.84～85	●何時, 何時半の時刻を読み取り, 生活と結びつけて話をする。 ●長針と短針の動きや文字盤から時計の仕組みを考え, 目盛りがどのような時刻を表すかを考える。	【態】日常生活と時刻を関連させながら, 話をしようとしている。 【思】長針と短針の動きや文字盤から, 時計の仕組みを考えている 【知】長針と短針の示す目盛りが, どのような時刻を表しているかを理解している。
	●時刻を時計模型で表す。 ●学んだことを活用して, 自分の生活時間を振り返ろうとする。 上 p.85	●いろいろな時刻を時計の模型で表す。 ●自分の生活と時刻を結びつけ, 絵をかく。	【知】時刻を時計の模型に表すことができる。 【態】自分の生活を時刻と関連させながら, 考えようとしている。

9 かたち（１） <9月下旬～10月上旬・6ページ・5時間> 学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)・イ(ア), [数学的活動](1)ア			
◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	身の回りにあるものの形から、基本的な平面図形を取り出したり、その基本図形を組み合わせたりすることができる。 基本的な立体図形や平面図形の形の特徴や機能的な特徴を理解することができる。	立体の形や面の特徴に着目して、図形の分類を考える力を養う。	身の回りにあるものの形が、基本図形の組み合わせでできているととらえ、いろいろな形を用いて活動したり構成したりしようとする態度を養う。
A	取り出したい形を意識して、身の回りにあるものの形から、基本的な平面図形を写し取り、その基本図形を組み合わせで絵をかくことができる。 基本的な立体図形や平面図形の形の特徴や機能的な特徴を理解し、操作や言葉などで説明するなど、図形についての豊かな感覚をもつことができる。	立体の色や大きさなどに関係なく、形や面の特徴など図形をみる観点ごとに、図形の分類を考えている。	身の回りにあるものの形が、基本図形の組み合わせでできているととらえ、意欲的にいろいろな形を探し出し、それを用いて活動したり構成したりしようとしている。
B	身の回りにあるものの形から、基本的な平面図形を取り出したり、その基本図形を組み合わせたりすることができる。 基本的な立体図形や平面図形の形の特徴や機能的な特徴を理解している。	立体の形や面の特徴に着目して、図形の分類を考えている。	身の回りにあるものの形が、基本図形の組み合わせでできているととらえ、いろいろな形を用いて活動したり構成したりしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
かたちあそびをしよう (4)	●立体図形に関心をもつ。 ●身近な生活の中から箱などの立体図形を集め、特徴をとらえて分類する。 上 p.86	●立体図形の特徴を考えて仲間分けをする。 ●どのように分けたか振り返る。	●事前に知らせているいろいろな箱集めをさせておく。 ●箱を分類する活動の場を設定する。 【知】立体図形の面の特徴を理解している。
	●転がる形と転がらない形について考える。 ●立体図形を積み上げて、高く積み上げやすい形とそうでない形の違いについて考える。 上 p.87	●形遊びをしながら、転がりやすい形を見つけ、その特徴をとらえる。 ●転がり方を見て、転がる理由を考える。 ●グループごとに箱を積み上げる遊びをする。 ●どのような形が積み上げやすいかを考える。	●箱を転がす活動、箱を積み上げる活動の場を設定する。 【知】転がりやすい立体図形や積み上げやすい立体図形の面の特徴などの機能的な特徴を理解している。
	●立体図形の特徴をとらえ、言葉で表現する。 上 p.88	●形当てクイズをし、手触りをもとに、立体の特徴をとらえ、立体図形の弁別をする。 ●立体図形の特徴をとらえ、言葉で表現する。	●立体を見えないようにして、形を想像する。 【思】立体の特徴から、立体図形の弁別を考えている。
	●集めた空き箱などの立体図形の機能や特徴を生かして作品を作る。 上 p.89	●作りたい形を考え、立体図形の機能や特徴を生かした箱選びをし、作品を作る。 ●自由に作品作りを楽しむ。 ●どんな箱をどんなところで使ったか発表し合う。	●目的にあった箱を選ぶ場を設け、立体図形の形や特徴を意識できるようにする。 【態】立体図形の機能や特徴を生かして、意欲的に作品作りに取り組もうとしている。
えをかこう (1)	●集めた空き箱などの立体図形から面を取り出したり、それらの形を組み合わせてたりする。 上 p.90～91	●集めた空き箱などの立体図形の面の形を写し取る。 ●写し取った形について話し合う。 ●形の特徴を生かして自由に作品づくりをする。 ●かいた絵を発表する。	●どの立体図形のどの面を使って平面図形を取り出したかを、立体図形を使って説明させる。 【知】身の回りにあるものの形から、基本的な平面図形を取り出したり、それらを組み合わせたりすることができる。

10 たしたりひいたりしてみよう <10月中旬・3ページ・2時間> 学習指導要領との関連 A(2)ア(ア)(イ)(ウ)・イ(ア), [数学的活動](1)ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	2つの数の加減法をもとに、3口の数の加減計算の場面を立式し、答えを求めることができる。 2つの数の加減法をもとに、3口の数の加減法の計算の意味やその方法を理解することができる。	具体物や図などを用いて、2つの数の加減法をもとに、3口の数の加減法の計算を考える力を養う。	身の回りで用いられている数を数えたり比べたり、数を用いて表そうとする態度を養う。
A	3口の数の加減計算の場面を、具体物や図などを用いて的確に表現したり考えたりして、立式して答えを求めることができる。 3口の数の加減計算の場面を、文章題から正しく理解し、具体物や図などを用いて的確に表現し、その計算の意味やしかたを理解している。	3口の数の加減計算の場面を、具体物や図などを用いて的確に表現したり、2つの数の加減法をもとに考えたりして、演算決定をしている。	問題場面を図や具体物などを用いて的確に表現し、3口の数の加減計算の場面を、筋道を立てて判断しようとしている。
B	3口の数の加減計算の場面を、具体物や図などをもとにして、立式して答えを求めることができる。 3口の数の加減計算の場面を、具体物や図などを用いて理解し、計算の意味やそのしかたを理解している。	3口の数の加減計算の場面を、図や具体物などを用いたり、2つの数の加減法をもとに考えたりして、演算決定をしている。	問題場面を図や具体物などを用いて表すなどして、3口の数の加減計算の場面を、判断しようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
3つのかずのけいさん (2)	●3口の計算になる問題場面について考える。 ●3口の計算になる問題場面を立式して、計算の方法を考える。 上 p.92～93	●場面を見てどんな式になるかを考えて、立式する。 ●3口の式についてブロック操作を通して場面と式を関連づけて考える。 ●3口の減法のしかたを考え、計算する。	●3つの数でも加法や減法に表すことができることを理解させる。 【知】絵や図から問題場面をとらえて、立式して答えを求めることができる。 【知】3口になる問題場面を読み取り、その意味や計算の方法を理解している。 【態】問題場面から数量の関係を読み取り、3口になる問題場面を1つの式に表そうとしている。
	●3口の数の加減混合の計算になる問題場面を立式して、計算の方法を考える。 ●問題作りの活動を通して、3口の計算の理解を深める。 上 p.94	●場面を見てどんな式になるかを考えて、立式する。 ●ブロック操作を通して場面と式を関連づけて考える。 ●3口の数の加減混合の計算のしかたを考え、計算する。 ●問題作りをする。	【知】絵や図から問題場面をとらえて、立式して答えを求めることができる。 【知】3口になる問題場面を読み取り、その意味や計算の方法を理解している。 【思】式に合う問題を作ったり、絵をかいたりしている。 【態】進んで問題を作ったり、友だちの問題を解いたりしようとしている。

1 1 たしざん

＜10月中旬～11月上旬・9ページ・9時間（授業6時間＋以外1時間＋補助2時間）＞
学習指導要領との関連 A(2)ア(イ)ウイ(エ), [数学的活動](1)ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある計算の意味やその方法を理解することができる。 繰り上がりのある計算が正しくできる。	繰り上がりのある加法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考える力を養う。	具体物を使いながら、進んで繰り上がりのある計算のしかたを考えようとする態度を養う。
A	10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある計算のしかたを理解し、正しく計算ができる。 被加数や加数の数値によって計算のしかたが変化するということを理解している。	繰り上がりのある加法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。 被加数や加数の大小に応じて計算のしかたを見いだしている。	1位数と1位数の加法で繰り上がりのある計算に進んで取り組み、その計算のしかたとしていろいろな方法を考え出そうとしている。
B	10のまとまりに着目することで、繰り上がりのある計算のしかたを理解し、正しく計算ができる。	繰り上がりのある加法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。	1位数と1位数の加法で繰り上がりのある計算に進んで取り組み、その計算のしかたを考えようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
くりあがりのあるたしざん (6)	●問題が加法の用いられる場面であることに気づき(合併), 答えの求め方を考える。 下 p.2~3	●バスの乗客数を求める場面を式に表す。 ●$9+4$ の計算のしかたをいろいろ考える。 ●9 に 1 を移して 10 を作ればよいことに気づく。 ☆$9+4$ の計算のしかたを 10 のまとまりに着目して, ブロックを使ったり, 絵をかいたりして繰り上がりのある加法の計算のしかたを説明する。	●ブロックを使ったり, 絵を描いたりして, 多様な計算のしかたを見つけさせる。 ●3 口の加法の学習を想起させる。 ●ここでは数えたしなどの方法が出て, 認めることが大切である。 【知】9 にたす計算のしかたを理解している。 【思】問題が加法の用いられる場面であることに気づき, 答えの求め方を考えている。
	●繰り上がりのある加法の計算では, 10 のまとまりを作ればよいことがわかる。 ●繰り上がりのある加法の計算をする。 下 p.4	☆$8+3$ の計算のしかたをブロックを使ったり絵をかいたりして説明する。 ●ブロックを使って確かめる。 ●10 のまとまりを作るために, 加数を分解すればよいことがわかる。 ●加数分解が使える場合の計算練習をする。	●ブロックを使ったり, 絵を描いたりして考えさせる。 【思】10 のまとまりを作るために, 加数を分解して考えればよいことを見いだしている。 【知】加数分解の計算ができる。
	●被加数を分解することによって, 10 のまとまりを作る場合について考える。 ●繰り上がりのある加法の計算をする。 下 p.5	●$3+9$ のような計算のしかたを考える。 ●場合によっては加数分解よりも被加数分解の方が簡単であることに気づく。 ●被加数分解が使える場合の計算練習をする。 ☆$3+9$ の計算のしかたを 10 のまとまりに着目して, ブロックを使ったり, 絵をかいたりして繰り上がりのある加法の計算のしかたを説明する。	●ブロックを使ったり, 絵を描いたりして考えさせる。 【思】被加数を分解することによって, 10 のまとまりを作る場合について考えている。 【知】繰り上がりのある加法の計算ができる。
	●「10 とあといくつ」という数の見方を用いて, 計算のしかたを考える。 ●これまでの学習と関連づけて, いろいろな計算のしかたを考える。 下 p.5~6	●$8+6$ の計算のしかたをいろいろ考え, 発表する。 ●ブロックを使って, 8 を 10 にする計算のしかたや, 6 を 10 にする計算のしかたなどを考える。 ●8 を 5 と 3, 6 を 5 と 1 と考えて, 5 と 5 を合わせて 10 を作る方法もあることに気づく。 ☆$8+6$ の計算のしかたをこれまでに学習してきた求め方をもとに考え, 説明する。	●ブロックを使ったり, 絵を描いたりして, 多様な計算のしかたを見つけ, 説明させる。 【態】これまでの学習と関連づけて, いろいろな計算のしかたを考えようとしている。 【思】「10 とあといくつ」という数の見方を用いて, 計算のしかたを考えている。 【思】加数分解, 被加数分解の考え方や, 5 と 5 を合わせて 10 を作るという考え方など, いろいろな方法を考えている。

くりあがりのあるたしざん (6)	●加法が用いられる場面であることに気づき、立式して答えを求める。 ●繰り上がりのある加法の計算をする。 下 p.7	●$5+6$の計算のしかたをいろいろ考え、発表する。 ●ブロックを使って、5を10にする計算のしかたや、6を10にする計算のしかたなどを考える。 ●6を5と1と考えて、5と5を合わせて10を作る方法もあることに気づく。 ☆$5+6$の計算のしかたをこれまでに学習してきた求め方をもとに考え、説明する。	●ブロックを使ったり、絵を描いたりして、多様な計算のしかたを見つけ、説明させる。 【思】加法が用いられる場面であることに気づき(増加場面)、立式して答えを求めている。 【知】繰り上がりのある加法の計算ができる。
	●問題作りの活動を通して、加法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結びつけて考える。 下 p.7	●絵を見て$7+8$になる問題を、いろいろな場面を想像して作る。 ●自分の作った問題を発表する。 ●友だちが作った問題を絵で表す。 ★式と具体的な場面を結びつけるために、$7+8$になる問題を考え発表する。	●実生活での具体的な場面に結びつけて、問題作りをさせる。 【態】問題作りの活動を通して、加法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結びつけて考えようとしている。
たしざんカード (2) (0)	●繰り上がりのある加法のカードを作って計算練習をする。 ●カードを使ってゲームをする。 ●楽しく活動しながら、計算力を高める。 下 p.8~9	●繰り上がりのある加法のカードを作る。 ☆カードを使って計算練習をする。 ☆カードを使って様々なゲームを行っている。 ●ゲームをしながら、楽しく計算練習をする。 ●カルタのように誰かが答えを言って、その答えになるカードを取る。 ●トランプのカード合わせのように、答えが同じになったらカードが取れるというゲームをする。 ●2人組になり、お互いカードを出し合い大きさを比べるゲームをする。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】自分の学習した計算をすべて書き上げてみようとしている。 【知】繰り上がりのある加法の計算が正しくできる。 ●ゲームの方法やルールを工夫させながら、楽しく取り組ませ、計算の習熟を図る。 【態】意欲的にゲームに取り組もうとしている。
	●答えが同じになるカードを集め、整理することで、被加数と加数の関係に気づく。 下 p.8~9	●答えが同じカードを集める。 ●集めたカードを整理して並べ、気づいたことを発表し合う。 ☆被加数と加数に着目してカードを並べる活動を通して、加数が1ずつ増えると答えが1ずつ増えるといったきまりを見つけ、説明する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●児童の発言やつぶやきをもとに、答えが同じになるカードを整理して黒板に貼っていく。 ●児童がカードの並び方を見て、気づいたことを、吹き出しなどを使って整理していく。 【思】被加数と加数の関係に着目し、規則性について考えている。 【思】1つの数をいろいろな数の和としてとらえている。

できるようになったこと (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 下 p.10	●繰り上がりのある加法の計算をする。 ●絵や図をかいて，加法適用の場面であることを読み取り，式と答えを考える。	●学校の授業以外場で取り組む内容とする。わからない問題については，本文および指導書等の解答を示して理解させる。
--	------------------------------------	---	--

12 ひきざん

＜11月上旬～下旬・12ページ・11時間（授業8時間＋以外1時間＋補助2時間）＞
学習指導要領との関連 A(2)ア(イ)ウイ(ア), [数学的活動](1)ウ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある減法の計算の意味やその方法を理解することができる。 繰り下がりのある減法の計算が正しくできる。	繰り下がりのある減法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考える力を養う。	具体物を使いながら、進んで繰り下がりのある減法の計算のしかたを考えようとする態度を養う。
A	10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある減法の計算のしかたを理解し、正しく計算ができる。 被減数や減数の数値によって計算のしかたが変化することであることを理解している。	繰り下がりのある減法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。 被減数や減数の大小に応じて計算のしかたを見いだしている。	(十何)－(1位数)の減法で、繰り下がりのある計算に進んで取り組み、その計算のしかたとしていろいろな方法を考え出そうとしている。
B	10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある減法の計算のしかたを理解し、正しく計算ができる。	繰り下がりのある減法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し、考えている。	(十何)－(1位数)の減法で、繰り下がりのある計算に進んで取り組み、その計算のしかたを考えようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
くりさがりのあるひきざん (6)	●問題が減法の用いられる場面(求残場面)であることに気づき、答えの求め方を考える。 下 p.11～12	●どんぐりの問題の場면을式に表す。 ☆12-9の計算のしかたを10のまとまりに着目して、ブロックを使ったり、絵をかいたりして繰り下がりのある減法の計算のしかたを説明する。 ●12-9の計算のしかたをいろいろ考える。 ●10から9をひいて、それから2を加えればよいことに気づく。	●ブロックを使ったり、これまでの学習をもとに多様な計算のしかたを見つけさせる。 ●ここでは数えひきなどの方法が出て、認めることが大切である。 【知】問題場面が、減法の場面であることを理解している。
	●繰り下がりのある減法の計算では、10から先にひけばよいことに気づく。 ●繰り下がりのある減法の計算をする。 下 p.13	●13-8の計算のしかたを説明する。 ☆13-8の計算のしかたをブロックを使ったり、絵をかいたりして説明する。 ●ブロックを使って確かめる。 ●一の位からひけないときは、10のまとまりからひけばよいことを知る。 ●減加法が使える場合の計算練習をする。	●ブロックを使ったり、絵を描いたりして考えさせる。 【思】10のまとまりから先にひけばよいことを、具体物を操作しながら見いだしている。 【知】減加法の計算ができる。
	●減々法の計算のしかたを考える。 ●繰り下がりのある減法の計算をする。 下 p.14	●11-2の計算のしかたを考える。 ☆11-2の計算のしかたを10のまとまりに着目して、ブロックを使ったり、絵をかいたりして繰り下がりのある減法の計算のしかたを説明する。 ●減々法による計算のしかたを理解し、減加法と比べてみる。 ●減々法が使える場合の計算練習をする。	●ブロックを使ったり、絵を描いたりして考えさせる。 【思】減々法の計算のしかたを、具体物や言葉、式、図を用いて表現し考えている。 【知】減々法の計算ができる。
	●14-6について、いろいろな計算のしかたを考える。 ●14-6のいろいろな計算のしかたを説明する。 下 p.14～16	●14-6の計算のしかたをいろいろ考えて発表する。 ☆14-6の計算のしかたをこれまでに学習してきた求め方をもとに考え、説明する。 ●いろいろな方法で繰り下がりのある減法の計算ができることを発見する。 ●具体物を使って、14-6の計算のしかたを整理する。 ●ブロックを使ったり、考え方のヒントになる言葉や絵、図をノートにかいたりして整理する。	●ブロックを使ったり、絵を描いたりして、多様な計算のしかたを見つけ、説明させる。 ●減加法、減々法どちらの方法でも計算できるようにする。 【思】減法のいろいろな計算方法を工夫している。

くり下がりのあるひきざん (6)	●繰り下がりのある減法の問題に取り組む。 ●減法が用いられる場面(求差場面)であることに気づき、立式して答えを求める。 下 p.16~17	●いろいろな方法で繰り下がりのある減法の計算練習をする。 ●減法適用の文章題を読み取り、式と答えを求める。	●言葉や絵や図をかいて、文章題の場面を正しく読み取らせる。 【思】式と具体的な場面を結びつけ、減法が適用される場面であることを判断している。
	●問題作りの活動を通して、減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結びつける。 下 p.17	●絵を見て 12-5 になる問題を、いろいろな場面を想像して作る。 ★式と具体的な場面を結びつけるために、12-5 になる問題を考え発表する。 ●自分が作った問題を発表する。 ●友だちが作った問題を絵で表す。	●実生活での具体的な場面に結びつけて、問題作りをさせる。 【態】いろいろな減法の具体的な場面を想起し、進んで問題作りに取り組もうとしている。
ひきざんカード (2) (0)	●繰り下がりのある減法のカードを作って練習をする。 ●カードを使ってゲームをする。 ●楽しく遊びながら、計算力を高める。 下 p.18~19	●繰り下がりのある減法のカードを作る。 ●ゲームをしながら、楽しく計算練習をする。 ☆カードを使って計算練習をする。 ●カルタのように誰かが答えを言って、その答えになるカードを取る。 ●トランプのカード合わせの要領で、答えが同じカードがペアになったら捨てていくというゲームをする。 ●2人組になり、お互いカードを出し合い大きさを比べるゲームをする。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●ゲームの方法やルールを工夫させながら、楽しく取り組ませ、計算の習熟を図る。 【態】自分の学習した計算をすべて書き上げてみようとしている。 【知】繰り下がりのある減法の計算が正しくできる。
	●答えが同じになるカードを集め、整理することで、被減数と減数の関係に気づく。 下 p.18~19	●答えが同じカードを集める。 ●集めたカードを整理して並べ、気づいたことを発表し合う。 ☆被減数と減数に着目してカードを並べる活動を通して、減数が1ずつ増えると答えが1ずつ減るといったきまりを見つけ、説明する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●児童の発言やつぶやきをもとに、答えが同じになるカードを整理して黒板に貼っていく。 ●児童がカードの並び方を見て、気づいたことを、吹き出しなどを使って整理していく。 【思】1つの数をいろいろな数の差としてとらえている。
たすのかな ひくのかな (2)	●合併場面、求残場面の文章題を読んで、加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて計算する。 下 p.20	●合併場面、求残場面を見て、どんな演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。 ☆文章題からどんな演算を適用すればよいかを考え、その演算に決定した理由を説明する。	●問題場面を絵や図に表すことで考えさせる。 【態】問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいか判断しようとしている。 【思】加法や減法の場面を具体物や図などを用いて考え、演算決定をしている。
	●増加場面、求差場面の文章題を読んで、加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて計算する。 下 p.21	●増加場面、求差場面を見て、どんな演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。 ☆文章題からどんな演算を適用すればよいかを考え、その演算に決定した理由を説明する。	【態】問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいか判断しようとしている。 【思】加法や減法の場面を具体物や図などを用いて考え、演算決定をしている。

できるようになったこと (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 下 p.22	●繰り下がりのある減法の計算練習をする。 ●絵や図をかいて、減法適用の場面であることを読み取り、式と答えを考える。	●学校の授業以外場で取り組む内容とする。わからない問題については、本文および指導書等の解答を示して理解させる。
--	------------------------------------	---	--

13 くらべてみよう

＜12月上旬～中旬・9ページ・7時間（授業6時間＋以外1時間）＞
学習指導要領との関連 C(1), [数学的活動](1)イ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	長さ、かさ、広さの比べ方、数値化の方法、量の概念を理解することができる。量の大きさについての豊かな感覚をもつことができる。 直接比較、間接比較、任意単位を使って、比べることができる。	長さ、かさ、広さの特徴をつかみ、長さ、かさ、広さを比べる方法や数値化する方法を考える力を養う。	身近にあるものの長さ、かさ、広さについて、その量の意味の違いや比べ方、表し方に関心をもって考えようとする態度を養う。
A	身近にあるものの長さ、かさ、広さの直接比較や間接比較、任意単位を使った比較のしかたを理解し、正しく手際よく比べることができる。 量の大きさについての豊かな感覚をもつことができる。	身近にあるものの長さ、かさ、広さを比べるときに、直接比較や間接比較、任意単位を使った比較のしかたを考え、いろいろ工夫している。	身近にあるものの長さ、かさ、広さに関心を持ち、直接比較したり、紙テープや共通の容器などを使って間接比較したり、任意単位を使ったりして、積極的に比べようとしている。
B	身近にあるものの長さ、かさ、広さの直接比較や間接比較、任意単位を使った比較のしかたを理解し、比べることができる。 量の大きさについての豊かな感覚をもつことができる。	身近にあるものの長さ、かさ、広さを比べるときに、直接・間接比較や任意単位を使った比較のしかたを考えている。	身近にあるものの長さ、かさ、広さに関心を持ち、いろいろな方法で比べようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
ながさくらべ (3)	●生活の中からいろいろな長さを見つける。 ●鉛筆やひも、はがきや箱の縦と横の長さを直接比較・間接比較によって比べる。 下 p.23～24	●身近にあるものの長さを比べる方法を考える。 ☆身近にあるものの長さを比べるための方法を考え、考えた方法を使い大きさを比べる。 ●ひものように、曲がっているものの長さを比べる方法を考える。 ●はがきや箱の縦と横の長さを比べる方法を考える。	○実際のものを触りながら、長さを比べる方法を考えさせる。 【態】いろいろなものの長さを進んで比べようとしている。 【知】端をそろえたり、まっすぐに伸ばしたり折ったりして、長さを比べることができる。 【知】直接比較や間接比較の方法を理解している。
	●教室にあるいろいろなものの長さを紙テープの長さに変えて取り出し、端をそろえて長さ比べをする。 下 p.24～25	●教室にあるいろいろなものの長さを、紙テープを用いて取り出す。 ☆身近にあるものの長さを比べるために、テープといった媒介物を用いて長さを写し取る考えで大きさを比べる。 ●いろいろなものを測定した紙テープを黒板に端をそろえて貼り、長さを比べる。	●いろいろなものの長さを比較、測定する活動を体験させることで、長さについての感覚を豊かにしたい。 ●身近にあるものの長さを、紙テープを用いて取り出す方法を体験させることで、間接比較の考え方を定着させる。 【知】紙テープを用いて、ものの長さを取り出し、基準をそろえて長さを比べることができる。
	●鉛筆などの任意単位を使って、身近にあるものの長さの大小を数の大小で表して比べる。 下 p.26	●任意単位の考えをもとに、長さを数値化する方法を考える。 ☆身近にあるものの長さを比べるために、小さいもののいくつかで測る考えで大きさを比べる。 ●机の縦と横の長さや、鉛筆の長さなどを任意単位で比べる。	●机の横の長さを指の間や鉛筆の長さで測定させることで、1つ分をそろえることの大切さに気づかせる。 【思】鉛筆などを単位として、身近にあるものの長さを数値化する方法を考えている。 【知】任意単位を用いて長さを測定することができる。

かさを比べよう (2)	●2つの入れ物に入ったジュースのかさを比べる方法を考える。 ●水槽やペットボトル、コップなどを使って、2つの入れ物に入ったジュースのかさを比べる。 下 p.27	●ジュースのかさを比べる方法をいろいろ考える。 ☆ジュースのかさを比べるための方法を考え、考えた方法を使い大きさを比べる。 ●ジュースのかさの比べ方を発表する。 ●かさを比べるのに、共通の容器が必要なことに気づく。	●かさは、どのような形になっても、またどのように分割しても、その全体の量の大きさが変わらないという性質に気づかせる。 ●比較させやすいように、大きな共通の容器(水槽やペットボトル等)や小さな共通の容器(コップやプリンカップ等)などを準備する。 【態】ジュースのかさの比べ方を進んで考えようとしている。 【知】直接比較、間接比較や任意単位による比較の考えを用いて、かさを比べることができる。 【思】長さと同様に、かさも単位を決めると、数値化できると考えている。
	●コップや小さな箱を使い、かさを数値化し、大きさを比べる。 下 p.28～29	☆コップや小さな箱を使い、かさを数値化し、大きさを比べる。 ●コップを単位として、かさを数値化する。 ●大きな箱の中に小さな箱を入れて比べる方法(直接比較・任意単位)について考える。	●身近にあるもののかさを比較、測定する活動を体験させることで、かさについての感覚を豊かにしたい。 ●比較させやすいように、大きな共通の容器(水槽やペットボトル等)や小さな共通の容器(コップやプリンカップ等)などを準備する。 【知】直接比較や任意単位による比較を用いて、液量に限らず身近にあるもののかさを比べることができる。
ひろさを比べよう (1)	●ハンカチや掲示板などの広さを比べる方法を考える。 ●ゲームを通して、任意単位による数値化比較を行う。 下 p.30	☆これまでに考えてきた大きさを比べる方法を使い、ハンカチや掲示板などの広さを比べる。 ●2枚のハンカチの広さを比べる方法を考える。 ●ハンカチを重ねると、広さの違いがわかることに気づく。 ●掲示板の広さを比べる方法を考える。 ●掲示板の広さの違いを表すには、同じ大きさの画用紙が何枚分というように数値化すると便利に気づく。 ●生活の中からいろいろな広さを見つけ、広さ比べをする。	●身近にあるものの広さを比較、測定する活動を体験させることで、広さについての感覚を豊かにしたい。 【知】重ね合わせて比べたり、画用紙の数を数えたりして、広さを比べることができる。 【知】直接比較や任意単位の考えをもとにして、身近にあるものの広さを比べる方法を理解している。 【態】ものの広さを進んで比べようとしている。
できあがったこと (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 下 p.31	●貨物列車の長さ、水筒のかさ、色板で作った形の広さを任意単位の考え方をもとに比べる。	●学校の授業以外の場で取り組む内容とする。わからない問題については、本文および指導書等の解答を示して理解させる。

かつどう！！

<12 月下旬・2 ページ・1 時間（補助 1 時間）>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●これまでの単元の学習をもとに、数の比べ方、加法や減法の考え方を日常場面に適用でき、複雑さを比べる。 ●これまでの単元の学習をもとに、日常場面から加法や減法の式をつくることができる。 下 p.32～33	●教室内の様々なものの数を数える。 ●加法や減法の式を検討して、お話として作り上げる。 ●班などの少人数から、続いてクラス全体などで自分と他の人との考え方を比べさせ、整理させる。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●教室の中の場面の変化を認識させる。 【態】自分の考えを人に説明したり、他の人の考えを聞いたりしようとしている。

1 4 2 0より大きいかずをかぞえよう

<1月上旬～2月上旬・14ページ・11時間（授業10時間＋以外1時間）>
学習指導要領との関連 A(1)ア(ハ)(カ)(キ)イ(ア), A(2)ア(エ), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	100までの数の読み方、書き方、数の大小、順序、系列を理解することができる。 数の大きさや構成についての豊かな感覚をもつことができる。	既習の数の仕組みをもとに、100までの数の読み方や書き方を考えたり、数の仕組みとその表現のよさに気づいたりする力を養う。	数の表し方に関心をもち、数の数え方や表し方を工夫しようとする態度を養う。
A	100までの数について、十進数としての数構成のよさを理解している。 数の読み方、書き方、数の大小、順序、系列を理解し、数の大きさや構成についての豊かな感覚をもつことができる。	100までの数表を見て、数の大小、順序など、いろいろな数のきまりを見つけ、十進位取り記数法のよさに気づいている。	数を数える活動を通して、数の数え方や表し方に関心をもち、10のまとまりを意識しながら数を数えたり、数を表したりしようとしている。
B	100までの数の読み方、書き方、数の大小、順序、系列を理解している。 数の大きさや構成についての豊かな感覚をもつことができる。 100までの数を正しく数え、読んだり書いたりすることができる。	100までの数表を見て、いろいろな数のきまりを見つけ、数の仕組みとその表現のよさに気づいている。	数を数える活動を通して、数の数え方や表し方に関心をもち、工夫して数えたり、数を表したりしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
100 までの かず (5)	●ブロックの数を数える活動を通して、十進位取り記数法としての2位数の表し方を考える。 下 p.34～35	☆ランダムに並んでいるブロックの数がよくわかるようになる並べ方を考え、実際に並べ、数を数える。 ●ブロックの数を数える方法をいろいろ考える。 ●10のまとまりを作って数える。 ●2位数の書き方を確認する。	●「10より大きいかずをかぞえよう」の学習を想起させて、ブロックの数の数え方をいろいろ工夫させたい。 【態】数を工夫して数えようとしている。 【思】十を単位とした数の見方で、工夫して数えている。
	●いろいろな場合の2位数の表し方について考える。 下 p.36	☆いろいろな場合の個数を10のまとまりごとに分けて数え、10のまとまりの個数と端数によって個数を表す。 ●10のまとまりだけで、端数がない場合の数の表記のしかたを知る。 ●ブロックを使って、2位数の構成について確かめる。	●10のまとまりを意識させて、数を数えたり、表記したりする。 【思】ばらがないときに、一の位がどうなるか考えている。 【知】空位の0について理解している。
	●指示された2位数をブロックを使って表す。 ●文で表された2位数の表し方について考える。 下 p.37	☆指示された数のブロックを並べたり、文で表された2位数の表し方について考えたりする。 ●指示された数のブロックを並べ、2位数の構成について確かめる。 ●文で表された数を読んで2位数を書く。	●10のまとまりを意識させて、これまでの学習をもとに表記する。 【知】指示された数をブロックを使って表したり、具体的に表された数を読んだり書いたりすることができる。
	●10が10個で100ということを知る。 下 p.38～39	☆魚が何匹いるのかを数えるための方法を考え、その方法で実際に数える。 ●魚が何匹いるのかを数えるための方法を考える。 ●「99とあと1つ」、「10が10こ」で100であることを知る。	●魚が何匹いるのかを数えるための方法を工夫させることで、10のまとまりに気づかせる。 【知】100の構成を理解している。
	●100までの数の表を作り、その規則性を発見する。 ●数表を見て、数の大小、順序などを考える。 ●数表を見て考えたことを数直線を使って確かめる。 下 p.40～41	☆完成させた数表から気づいたことを発表したり、順序や数系列について考えたりする。 ●0から100までのカードを作って順序よく並べる。 ●数表を見ながら、文で表された数を考えたり、気づいたことを発表したりする。 ●数直線を使って、順序や数系列について確かめる。	●数直線を使って、順序や数系列について考えさせる。 【思】0から100までの数表を見て、十を単位とした数の見方やきまりを見いだしている。
100 より 大きい かず (1)	●100より大きい数の読み方、書き方を知る。 下 p.42	☆鉛筆を10のまとまりで数えて、10のまとまりの個数と端数によって個数を表す。 ●100より大きい数の読み方、書き方を考える。	●10のまとまりと100のまとまりの関連を意識させる。 【知】100より大きい数の読み方や書き方を理解している。

たし算とひき算 (4)	●簡単な(何十)+(何十)の計算のしかたを考える。 下 p.43	☆20+30などの計算を10のまとまりを単位として考え、既習である2+3をもとに答えを出す。 ●20+30などの十を単位としてみられる数の加法の計算のしかたを考える。 ●ブロックなどを操作しながら、十を単位とした数の見方に関連させて、2+3をもとに答えを見つける。	●十のまとまりを単位として考えさせることで、2+3をもとに答えを出せることに気づかせる。 【思】既習事項をもとに、ブロックなどを操作しながら計算のしかたを考えている。
	●簡単な(2位数)+(1位数)の計算のしかたを考える。 下 p.44	☆繰り上がりのない(2位数)+(1位数)の計算のしかたを考え、説明する。 ●ブロックなどを操作しながら、答えの求め方を考える。	●簡単な2位数を含む加法を学習することで、1位数までの計算の理解や、2位数までの数の理解を確実にしたい。 【思】計算のしかたを、図や式を用いて考えている。 【知】簡単な2位数を含む加法の計算が正しくできる。
	●簡単な(何十)-(何十)の計算のしかたを考える。 下 p.45	☆50-20などの計算を10のまとまりを単位として考え、既習である5-2をもとに答えを出す。 ●50-20などの十を単位としてみられる数の減法の計算のしかたを考える。 ●ブロックなどを操作しながら、十を単位とした数の見方に関連させて、5-2をもとに答えを見つける。	●十のまとまりを単位として考えさせることで、5-2をもとに答えを出せることに気づかせる。 【思】既習事項をもとに、ブロックなどを操作しながら計算のしかたを考えている。
	●簡単な(2位数)-(1位数)の計算のしかたを考える。 下 p.46	☆繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算のしかたを考え、説明する。 ●繰り下がりのない(2位数)-(1位数)の計算のしかたを考える。 ●ブロックなどを操作しながら、答えの求め方を考える。	●簡単な2位数を含む減法を学習することで、1位数までの計算の理解や、2位数までの数の理解を確実にしたい。 【思】計算のしかたを、図や式を用いて考えている。 【知】簡単な2位数を含む減法の計算が正しくできる。
できるようになったこと (1) (0)	●既習事項の確かめをする。 下 p.47	●写真や絵で表された色鉛筆やあめの数を読んで書く。 ●文で表された数を読んで書く。 ●(何十)±(何十)や、簡単な(2位数)+(1位数)、(2位数)-(1位数)の計算をする。	●学校の授業以外場で取り組む内容とする。わからない問題については、本文および指導書等の解答を示して理解させる。

15 なんじなんぷん

＜2月上旬・3ページ・2時間＞
学習指導要領との関連 C(2), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	時計の長針や短針の示す目盛りの意味を理解することができる。 また、時刻(何時何分)の読み方、模型での表し方を理解することができる。	時計の針の回り方、目盛りの仕組みなどのきまりをもとに考える力を養う。	時計に関心をもち、時刻を日常生活に活用しようとする態度を養う。
A	時計の数字の目盛りや長針や短針の位置関係をもとに、時刻(何時何分)の正確な読み方を理解している。 また、時計を見て、時刻(何時何分)を正確に読んだり、時刻を模型で正確に表したりすることができる。	時刻(何時何分)を読むときに、時計の長針や短針の位置関係に着目して考え、読み方を工夫している。	自分の日常生活と時刻を関連させてとらえようとし、日常生活で活用しようとしている。
B	時計の数字の目盛りや長針や短針の位置関係をもとに、模型を操作することによって、時刻(何時何分)の読み方を理解している。 また、時計を見て、時刻(何時何分)を正確に読んだり、時刻を模型で表したりすることができる。	時刻(何時何分)を読むときに、時計の長針や短針の位置関係に着目して考えている。	自分の日常生活と時刻を関連させてとらえようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
とけい (2)	●時刻に関心をもち、生活場面と結びつけて時刻を読もうとしている。 ●時計の仕組みに関心をもち、時刻の読み方と結びつけて考える。 ●長針と短針の動きや文字盤から、時計の仕組みがわかる。 下 p.48～49	★時刻について生活場面と結びつけながら、時計の仕組みや目盛りがどのような時刻を表すかを考える。 ●時刻(何時何分)を読み取り、生活と結びつけて話をする。 ●長針と短針の動きや文字盤から時計の仕組みを考え、目盛りがどのような時刻を表すかを考える。	●教科書の絵を参考にしながら、日常生活と時刻を関連づけられるようにする。 【態】日常生活と時刻を関連させながら、話をしようとしている。 【思】長針と短針の動きや文字盤から、時計の仕組みを考えている。 【知】長針と短針の示す目盛りが、どのような時刻を表しているかを理解している。
	●時刻を模型時計で表す。 ●学んだことを活用して、自分の生活時間を振り返ろうとする。 下 p.50	★時刻について生活場面と結びつけながら、いろいろな時刻を模型で表したり、時刻を読んだりする。 ●いろいろな時刻を模型に表す。 ●自分の生活と時刻を結びつけ、話をする。	●つまづきに対して、これまでの学習を振り返りながら、時計の模型を操作させる。 【知】時刻を模型時計に表すことができる。 【態】自分の生活を時刻と関連させながら、考えようとしている。

16 たすのかな ひくのかな ずにかいてかんがえよう

<2月中旬～下旬・7ページ・5時間>

学習指導要領との関連 A(1)ア(イ), A(2)ア(イ)イ(ア), [数学的活動](1)エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	加法, 減法の場面をより一層理解し, 順序数, 集合数に関連した加減法の計算の意味やその方法を理解することができる。 また, どの演算を用いればよいかを判断し, 立式して答えを求めることができる。	加法, 減法が用いられる場面を, 具体物や図などを用いて考え, 演算決定をする力を養う。	図や具体物などを用いて表すなどして, 具体的な方法で演算を判断しようとする態度を養う。
A	加法, 減法の用いられる場面を文章題から正しく理解し, 具体物や図などを用いて的確に表現し, 順序数, 集合数に関連した加減法の計算の意味やその方法を理解している。 また, 具体物や図などを用いて的確に表現したり考えたりして, 立式して答えを求めることができる。	加法, 減法が用いられる場面を, 具体物や図などを用いて的確に表現したり考えたりして, 演算決定をしている。	問題場面を図や具体物などを用いて的確に表現し, どの演算を用いればよいかを筋道を立てて判断しようとしている。
B	加法, 減法の用いられる場面を具体物や図などを用いて理解し, 順序数, 集合数に関連した加減法の計算の意味やその方法を理解している。 また, 具体物や図などをもとにして, 立式して答えを求めることができる。	加法, 減法が用いられる場面を, 図や具体物などを用いて考え, 演算決定をしている。	問題場面を図や具体物などを用いて表すなどして, どの演算を用いればよいかを判断しようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
たすのかなひくのかな (4)	●順序数を含む場面を式に表したり、図に表したりする。 ●順序数の場面を数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりする。 下 p.51～52	☆問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいかを考えたり、演算決定した理由を説明したりする。 ●絵をヒントにして、順序数を含む問題場面であることを読み取る。 ●具体物や絵や図などをもとにどのような演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。	●問題場面を絵や図に表すことで、数量の関係をとらえさせ、どの演算を用いればよいか判断させる。 【態】問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいか判断しようとしている。 【思】数量の関係に着目し、加法・減法になる場面の計算の意味や計算のしかたを考えている。 【知】順序数を含む場面を図に表したり、式に表したりすることができる。
	●異種のもの数量を含む場面を式に表したり、図に表したりする。 ●異種のもの数量の関係に着目し、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりする。 下 p.53～54	☆問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいかを考えたり、演算決定した理由を説明したりする。 ●絵をヒントにして、異種のもの数量を含む場面であることを読み取る。 ●具体物や絵や図などをもとにどのような演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。	●問題場面を絵や図に表すことで、数量の関係をとらえさせ、どの演算を用いればよいか判断させる。 【態】問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいか判断しようとしている。 【思】異種のもの数量の関係に着目し、加法・減法になる場面の計算の意味や計算のしかたを考えている。 【知】異種のもの数量を含む場面を図に表したり、式に表したりすることができる。
	●求大の場面を式に表したり、図に表したりすることができる。 ●求大の場面で加法を用いることができるかどうかを見だし、数量の関係に着目して、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりする。 下 p.55	☆問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいかを考えたり、演算決定した理由を説明したりする。 ●絵をヒントにして、求大場面であることを読み取る。 ●文章題を見て、具体物や絵や図などをもとにどのような演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。	●問題場面を絵や図に表すことで、数量の関係をとらえさせ、どの演算を用いればよいか判断させる。 【思】求大の場面であることを、図をもとに見いだしている。 【知】求大の場面を図に表したり、式に表したりすることができる。
	●求小の場面を式に表したり、図に表したりすることができる。 ●求小の場面で減法を用いることができるかどうかを見だし、数量の関係に着目して、計算の意味や計算のしかたを考えたり、日常生活に生かしたりする。 下 p.56	☆問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいかを考えたり、演算決定した理由を説明したりする。 ●絵をヒントにして、求小場面であることを読み取る。 ●文章題を見て、具体物や絵や図などをもとにどのような演算を適用すればよいか判断し、問題を解く。	●問題場面を絵や図に表すことで、数量の関係をとらえさせ、どの演算を用いればよいか判断させる。 【思】求小の場面であることを、図をもとに見いだしている。 【知】求小の場面を図に表したり、式に表したりすることができる。
なかよくわけよう (1)	●具体物をまとめて数えたり等分したりして整理し、表すことができる。 下 p.57	☆具体物を使い等しく分けるための方法を考え、説明する。 ●ブロックを使って、10個のいちごを2人に分けるいろいろな方法を考える。 ●ブロックを使って、18個の金平糖を3人に分けるいろいろな方法を考える。	●本時の学習を活用し、生活の中にある「分ける」という活動を想起させる。 【思】具体物を操作した過程や結果を、図や数などに整理している。

ふりかえろう つなげよう

＜2 月下旬・2 ページ・1 時間（補助 1 時間）＞

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●身の回りで使われている数に興味をもち、どんなところに数が使われているかを調べようとしている。 ●12 個の○を規則的に並べ、加法などの式で表す。 ●12 という数の見方を豊かにする。 下 p.58～59	●教室内の様々なものの中で12になるものを探す。 ●○の並び方から、和が12になる式を考える。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 ●12 以外にも教室の中から、その数のものを探させる。 ●同じ答えでもいろいろな式をつくることのできることを意識させる。

17 かずしらべ

＜2月下旬・2ページ・1時間＞
学習指導要領との関連 D(1), [数学的活動](1)エ

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	ものの個数を式や絵グラフなどを用いて、表したり読み取ったりすることができる。 また、ものの個数を式や絵グラフなどを用いて、表したり読み取ったりするよさを理解することができる。	ものの個数を把握するために、見やすく整理する方法を考える力を養う。	日々変化する数を整理して表そうとする態度を養う。
A	ものの個数を式や絵グラフなどを用いて表し、資料の最大値や最小値を読み取ることができる。 ものの個数を式や絵グラフなどを用いて表すことで、個数の大小がわかりやすくなるなど、資料を整理して表すよさを理解している。	ものの個数を数えるときに、日々変化していく数量に着目し、式や絵グラフを用いて、わかりやすく表す方法を工夫している。	日々変化する数に関心を持ち、数を整理して表そうとしている。
B	ものの個数を式や絵グラフなどを用いて、表したり読み取ったりするよさを理解している。 ものの個数を式や絵グラフなどを用いて、表したり読み取ったりすることができる。	ものの個数を数えるときに、日々変化していく数量に着目し、式や絵グラフを用いて、わかりやすく表す方法を考えている。	日々変化する数を整理して表そうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
かずしらべ (1)	●クラスで集めているペットボトルキャップなどの個数に関心を持ち、日々変化していく数量を比べようとしている。 ●資料を見やすくする方法を考える。 下 p.60～61	☆資料を絵グラフに表すことで、情報を整理し、最大と最小の個数の差について考え、説明する。 ●何曜日にペットボトルのふたを何個持ってきたかを式や絵グラフで表す。 ●絵グラフを見て、最大と最小の個数の差を求めることができる。	●日々変化していく数量や何をもとに考えていくのかに着目させるために、文章をもとに考えさせる。 【思】日々変化していく数量に着目し、各曜日の個数の求め方を考えている。 【知】数を絵グラフに置き換えて表すことができる。

18 かたち（2）

＜3月上旬・3ページ・3時間＞
学習指導要領との関連 B(1)ア(ア)(イ)・イ(ア), [数学的活動](1)ア

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	基本的な平面図形の特徴や性質を理解することができる。 また、形の観察、構成、分解の活動を通して、図形についての基礎となる経験を豊かにすることができる。	基本的な平面図形の特徴や性質に着目し、形を構成・分解することを考える力を養う。	基本的な平面図形を組み合わせることができる形を考えようとする態度を養う。
A	いろいろな形を作ったり、構成を考えたりしながら、基本的な平面図形の機能的な性質を理解している。 また、形の観察、構成、分解の活動を通して、図形についての基礎となる経験を豊かにすることができる。	基本的な平面図形の特徴や性質に着目し、見通しをもって、いろいろな形を構成・分解することを考えている。	身の回りの具体物をイメージしながら、いろいろな組み合わせを考え、工夫して形を作ろうとしている。
B	平面図形を構成しながら、基本的な平面図形の性質を理解している。 また、形の観察、構成、分解の活動を通して、図形についての基礎となる経験を豊かにすることができる。	基本的な平面図形を並べたり、移動させたり操作しながら、形を構成・分解することを考えている。	身の回りの具体物をイメージしながら、形を作ろうとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
かたちづくり (3)	●色板を使って、いろいろな形を作る。 ●自分が作った作品を発表したり、友だちの作った作品を見て同じ形を作ったりする。 下 p.62	☆色板を操作していろいろな形を作り、作った作品を発表したり、友だちが作った作品を再現したりする。 ●色板を使って、いろいろな形を作る。 ●自分が作った作品を発表する。 ●友だちが作った作品と同じ形を作る。	●教科書 89 ページの色板を切り取り、色板を裏返したり回転させたりしながら、楽しく形を作らせることで、図形についての感覚を豊かにしたい。 【態】色板を工夫して並べて、形を作ろうとしている。 【知】色板を組み合わせせて、いろいろな形を作ることができる。
	●色板を移動(ずらす・回す・裏返す)させて、いろいろな形を作る。 下 p.63	☆色板を移動させて、提示された形を作る。 ●4枚の色板を「ずらす」、「回す」、「裏返す」などして、①～④の形を工夫して作る。 ●1枚の色紙をどのように動かせばよいか予想しながら、2つの形を工夫して作る。	●色板を移動させて形を作ることができない場合は、教科書に直接、色板を敷き詰めさせるなどの手立てを工夫したい。 【思】平行移動、回転移動、対称移動など、見通しをもって色板を操作しながら、形を構成、分解することを考えている。 【知】形の観察、構成、分解の活動を通して、図形についての基礎となる経験を豊かにすることができる。
	●棒を使っていろいろな形を作ったり、友だちの作品を見て同じ形を作ったりする。 ●格子状の点と点をつないで、いろいろな形を作る。 下 p.64	☆棒を使ったり、格子状の点をつないだりして、いろいろな形を作り、作った作品を発表したり、友だちが作った作品を再現したりする。 ●棒を使って、いろいろな形を作る。 ●自分が作った作品を発表する。 ●友だちが作った作品と同じ形を作る。 ●格子状の点をつないで、いろいろな「閉じた形」を作る。	●作った作品から「閉じた形」を見つける活動を取り入れることで、図形についての感覚を豊かにしたい。 【態】棒を工夫して並べて、形を作ろうとしている。 【知】棒による図形の構成の学習を生かし、点と点を直線でつないで形を構成することができる。

19 1年のまとめをしよう

<3月中旬・5ページ・3時間（以外3時間）>

◆評価の観点からみた単元の目標◆ と ◆評価規準◆

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標	既習の数の構成や計算，測定のしかたを理解することができる。 既習の計算や測定が適切にできる。	既習の見方・考え方を確かめたり，その関係を考えたりする力を養う。	1年で学習したことに進んで取り組み，学習のまとめをしようとする態度を養う。
A	10のまとまりを意識しながら，2位数の構成や順序，計算のしかたを理解し，数を数えたり，計算したりすることができる。任意単位を用いた長さや広さの数値化について理解し，比較することができる。	これまでに学習してきた数の見方や考え方，計算のしかた，ものの長さや広さについての考え方を整理して関係を考えている。	これまでに学習してきた数の見方や考え方，計算のしかた，ものの長さや広さについての考え方を整理して関係を考えている。
B	2位数の構成や順序，計算のしかた，任意単位を用いた長さや広さの比較の方法を理解している。 数を数えたり，加法，減法の計算をしたり，任意単位を用いて，ものの長さや広さを比較したりすることができる。	これまでに学習してきた数の見方や考え方，計算のしかた，ものの長さや広さについての考え方を整理している。	1年で学習したことに進んで取り組み，学習のまとめをしようとしている。

小単元	ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
1年のまとめをしよう (3)	●いちごの個数を正しく数える。 ●文で表された2位数の表記のしかたを考える。 下 p.65	●いちごの個数を数える方法を考える。 ●2，3位数の数構成を確認する。	●学校の授業以外の場で取り組む内容とする。わからない問題については，本文および指導書等の解答を示して理解させる。 【知】10のまとまりの個数と端数を作って，数を数えることができる。 【知】2，3位数の構成を理解している。
	●2位数の大小比較をする。 ●数直線上に正しく表す。 ●83の構成を考える。 ●100までの数の順序，系列を考える。 ●時計の表す時刻を読む。 下 p.66～67	●2つの数の大小を比較する。 ●数系列について考え，数直線上に正しく表す。 ●83は10のまとまりがいくつあるのか，その端数はいくつなのかを考える。 ●50からの点つなぎをして，どんな絵が出てくるかを考える。 ●時計の表す時刻を読む。	【知】数系列や2位数の数の構成について理解している。 【知】数の順序，系列を理解している。 【知】分単位で，時計を読むことができる。

●ひもの長さを、任意単位の考え方をもとに比べる。 ●1 位数同士の加法・減法、簡単な 2 位数の加法・減法の計算ができる。 ●問題作りの活動を通して、加法や減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結びつける。 ●加法、減法のどちらを用いればよいかを考え、適切な演算を用いて答えを求めることができる。 ●3 口の計算になる問題場面を、絵などをかいて考える。 下 p.68～69	●まず目を活用して、それぞれの色のひもの長さを、任意単位を用いて比べる。 ●1 位数同士の加法・減法、簡単な 2 位数の加法・減法の計算をする。 ●絵を見て、$8+4$、$12-7$になる問題を、いろいろな場面を想像して作る。 ●自分の作った問題を発表する。 ●場面を見て、どんな演算を用いればよいか判断し、問題を解く。	【知】任意単位を用いて、長さを比較することができる。 【知】加法・減法の計算が正しくできる。 ●実生活での具体的場面に結びつけて、問題作りをさせたい。 【態】いろいろな加法・減法の具体的場面を想起し、進んで問題作りに取り組もうとしている。 【思】問題場面を絵や図に表すことで、どの演算を用いればよいか考えている。
--	--	---

プログラミングのプ

<3 月下旬・2 ページ・1 時間（補助 1 時間）>

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●論理的思考力を使って、問題を解決する。 下 p.70～71	●論理的思考力を使って、課題を解決する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【思】論理的思考力を使って、課題を解決している。

いまのじぶんをしよう！

＜3月下旬・3ページ・1時間（補助1時間）＞

ねらい	学習活動	指導上の留意点と評価の観点
●1年の算数で学んできた様々なことを活用して、次年度の新1年生に、自分の小学校の中にたくさんの楽しいこと・算数を学べるものがあることを紹介する「学校さんすうクイズ」を作成しプレゼントする。 下 p.72～74	●班に分かれ、それぞれ学習した分野の問題を作成する。	●すべての学習を終えた段階で、地域や学校の状況に応じて補助的に取り組む内容とする。 【態】自分の考えを人に説明したり、他の人の考えを聞いたりしようとしている。